

平成30年4月定例教育委員会会議

- 開催日時 平成30年4月23日（月）午後1時30分～午後2時45分
- 開催場所 鹿嶋市役所 3階 会議室303
- 出席委員 教育長 川村 等
教育長職務代理者 小澤 和夫
委員 岡見 文彦
委員 原 キミ
委員 大崎 千帆
- 欠席委員 委員 信樂 哲
- 事務局出席者 教育委員会事務局部長 浅野 正
教育委員会事務局次長 大須賀 規幸
教育委員会事務局次長兼国体推進担当参事 佐藤 由起子
教育総務課参事兼課長 大沢 英樹
鹿嶋っ子育成課長 鈴木 欽章
教育指導担当参事兼教育指導課長 山口 久弥
教育指導課副参事 山田 岳男
教育センター所長 小室 富保
社会教育課長 浅野 敏勝
スポーツ推進課長 飯塚 俊行
スポーツ推進課副参事 野口 浩二
国体推進室長 山口 和範
スポーツ推進担当副参事 内野 浩
中央図書館長 菊本 義人
中央公民館長 東峰 由美子
学校給食センター所長 津島 応紀
教育総務課課長補佐 久保 美由紀
教育総務課主事 石毛 千遥

○ 議 事

1 議 案

公 開 議案第 17 号 平成 30 年度鹿嶋市奨学生の決定について (教育総務課)

公 開 議案第 18 号 平成 30 年度鹿嶋市家庭教育力向上推進協議会委員の委嘱または任命について (社会教育課)

2 報告議案

公 開 報告第 9 号 鹿嶋市立学校管理規則の一部を改正する規則について (鹿嶋っ子育成課)

公 開 報告第 10 号 平成 30 年度鹿嶋市教育支援委員会委員の委嘱または任命について (教育指導課)

3 協議・報告事項

公 開 ・平成 30 年度鹿嶋市教育行政運営方針について (教育総務課)

公 開 ・非常勤職員(公民館長・主事)の人事について (中央公民館)

4 その他

○ 会議録

1 開 会

教育長から開会の宣言がされた。

2 議事録署名人の指名

岡見 文彦委員が指名された。

3 議 案

議案第 17 号 平成 30 年度鹿嶋市奨学生の決定について
(教育総務課) 資料に基づき説明

【主な質疑・意見等】

(委 員) 候補者決定後、辞退された方などいらっしゃるようだが、今後の取り扱いは。

(教育総務課) 現在、追加募集をしており、今回の決定を踏まえ、採用枠を決定したい。本日時点で 3 名が願書を受け取りに来られた。5 月の申請受付の際に何名の応募があるかはわからないが、申込みがあった場合は審査会を経て、6 月の定例会にお諮りすることになる。

※ 議案第 17 号については、原案どおり可決された。

議案第18号 平成30年度鹿嶋市家庭教育力向上推進協議会委員の委嘱または任命
について
(社会教育課) 資料に基づき説明

【主な質疑・意見等】

(委員) No.8番からNo.15番までの方の選考基準を教えてください。
(社会教育課) こちらは支援チーム員で実際に家庭に訪問する方々。地域の民生員等
が主なメンバーで、昨年と同様に地域の中で家庭に入っている方々に
引き続きお願いしている。

(委員) 特に教育に関してバックグラウンドがある方ではなく、地域に根差し
てらっしゃる方ということか。

(教育長) 児童員ではないのか。

(社会教育課) 民生員と児童員、両方兼ねている方に委嘱している。

(教育長) 児童員であれば、教育に関するバックボーンを持っている方となる。

(委員) 実際に平成29年度から委嘱・任命しているということで、活動を教
えていただきたい。

(社会教育課) 昨年度はこの事業を行うにあたり、第一弾として学校から困り感のあ
る家庭を報告していただき、訪問を行い、そこで受けた相談を、市の
教育センターやこども福祉課等と連携を取りながら対応していった。
第二弾として、年度後半に大同東小学校と高松小学校を対象として小
学校1年生の家庭を全戸訪問した。これは特に困り感がなくても、全
戸を回り話を伺い、そこで受けた相談事で根深いことがあれば、関係
機関に繋ぐということを行った。今年度は、より早い段階から家庭教
育を支援していくということで、就学前のお子さんをお持ちの家庭を
訪問したいと考えている。具体的には幼稚園という年長、5歳児の家
庭への全戸訪問を考えており、5月の家庭教育力向上推進協議会にお
諮りする予定。

(教育長) 全戸訪問する際のPRはどのように考えているか。

(社会教育課) まずは幼稚園・保育園・認定こども園に伺って、周知の文書やチラシ
を保護者へ配布してもらおうようお願いする。また広報紙等でPRして
いきたい。

※ 議案第18号については、原案どおり可決された。

報告第9号 鹿嶋市立学校管理規則の一部を改正する規則について
(鹿嶋っ子育成課) 資料に基づき説明

【主な質疑・意見等】

- (委 員) 高松中学校の英語の教科において小学校と中学校で一貫した教育課程を編成する小中一貫教育を行うという話であったが、他の教科で行うものはあるか。
- (鹿嶋っ子育成課) 教育課程でいう教科については今のところない。その他の取り組みとしては小・中学校間、また地域との交流や他の学校でも行われている、専科の配置等を行う。
- (教育指導課) 小・中学校間で先生が行き来する乗り入れ授業を行う。高松小学校、高松中学校では小学校に配属された、英語の免許を持っている先生が中学校で教えたり、中学校は定数の関係で家庭科の先生が配置されていないが、小学校に家庭科の免許を持った先生がいるので、中学校に行って家庭科を教えたり、中学校の音楽や美術の先生が小学校の音楽や図工の授業を指導したりする。部活動では小学校にサッカー部の指導ができる先生がおり、中学校の部活動の副顧問として活動するというも行っていく。
- (委 員) 鹿嶋市で初めての小中一貫教育ということで、初めての試みの中で順調なスタートとなったか。現場の状況を教えていただきたい。
- (鹿嶋っ子育成課) 今のところ問題はない。入学式では小学生と中学生が手を繋いで入場した。学校が行ったアンケートでは、このことに対して中学校の保護者達から特によかったというご意見が多かったと伺っている。また、小学校については、やはり1年生という飽きてしまうところがあるので時間について工夫が必要だが、特に大きな問題はなかった。今後は校長先生方と連携を図りながら期待される効果や成果の検証をどういった指針で行っていくかを併せて協議していき、次の新たな設置校に向けて協議していきたいと考えている。
- (委 員) 中学校の外国語の授業を週4時間から5時間に増やす、その1時間は何の時間を充てるのか。
- (鹿嶋っ子育成課) 総合的な学習の時間を1コマ減らす。年間で35時間減らして、その分を英語の授業に充てる。

※ 報告第9号については、原案どおり承認された。

報告第10号 平成30年度鹿嶋市教育支援委員会委員の委嘱または任命について
(教育指導課) 資料に基づき説明

【主な質疑・意見等】

特になし

※ 報告第10号については、原案どおり承認された。

4 協議・報告事項

・平成30年度鹿嶋市教育行政運営方針について

(教育総務課) 資料に基づき説明

【主な質疑・意見等】

(委員)

3ページで幼稚園の施設再編成とあるが、今後整備計画を作るということで、どのような方向性を考えているか。もう一点図書館で電子図書館が始まり、図書館事業の頑張りが見られる。そこで、図書館の朝の開館時間について、現在の10時開館を早める予定はあるか。

(鹿嶋っ子育成課)

1点目の幼稚園の今後の在り方について、教育委員会の幼稚園と健康福祉部の保育園、両サイドの組織的な再編と施設面において、幼稚園では、波野、三笠、保育園は、大船津が一番古く、また佐田、宮下も一定年度の年数が経っており、施設の老朽化が課題となっている。これらの教育委員会で所管している幼稚園と健康福祉部で所管している保育園の施設の耐用年数と維持管理を含めて、市として一番効果的な組織・施設配置を検討していきたい。健康福祉部と今後、話を詰めていき、需要と供給のバランスを考えた中での再配置が必要だと考えている。

(中央図書館)

電子図書館は、本年、平成30年1月16日から開設し、現在までで約300点の貸出しがあるが、一般的に個人用のコンテンツは数があるが、図書館用としては数が少なく、既存の図書に比べて高価のため、期待に応えるだけの蔵書をすぐには増やせないが、計画的に進めていきたい。開館時間の延長については、過去3か年、7月と8月の火曜、金曜は夜7時まで開館している。朝の開館時間については、県内の図書館で10時開館はあまりないのが現状で理想の開館時間は朝の9時から夜の7時までだが、通年で開館できるかどうか、あるいは夏休み期間などの期間限定とするのか検討していきたいと考えている。

(委員)

不登校生徒の解消ということで、中学生を5%以下にしたいということだが、昨年の不登校生徒はどれくらいか。また、今までフロンティア・アドベンチャー事業を新採教員の研修の場として位置づけていた部分があったと思うが、今後2、3年経験した先生にお願いしたいということで、変更された経緯を教えていただきたい。

(教育指導課)

まず、不登校生徒の人数について、平成28年度の数字では、30日以上欠席している児童・生徒の人数は小学生、3,435名のうち38名で率にすると1.10%。平成27年度と比較するとプラスマイナス0。中学生、1,630名のうち71名。率にすると4.35%。平成27年度と比較すると0.63%マイナスとなった。平成27年度も前年度比がマイナスなので中学校は2年連続で減少傾向にある。数値は達成しているが、今後とも目標値を5%として進めていきたい。

(社会教育課)

1年目の教員の方々は、夏休みの間に他の研修が集中しているという

ことで、フロンティア・アドベンチャーの期間と重複してしまうことから、今後2年目以降の先生方をお願いすることとした。今年度については2年目から5年目の先生方をお願いし、来年度以降は2年目の先生に固定をお願いしたいと考えている。

(委員)

鹿嶋市は小学校の英語教育に力を入れていて、特色ある教育活動だと思う。今回新学習指導要領の実施に伴い、先行して、小学校で英語の単位数を増やし、70時間にするということで、これは総合的学習の時間から単位をもってくるのか。またモジュール学習は鹿嶋市内のすべての小学校で実施されるのか。2点目は英検3級レベル以上の割合の目標値を40%以上に設定するというので、そのために、具体的にどのような取り組みを考えているのか。また、英検というのは受験料がかかると思うが、その費用はどうなっているか。

(教育指導課)

まず小学校の英語の授業に関して、高松小学校については、従来の英語の授業、週1時間と総合的な学習の時間から週1時間の週2時間で年間70時間と捉えている。それ以外の11の小学校ではモジュール学習を行う。時間の取り方は70時間のうち35時間は従来の英語の授業で15時間はコミュニケーションを大切にする時間として総合的な学習の時間を充てる。残りの20時間はモジュール授業を行う。モジュール授業では、学習指導要領の改訂に伴い、従来の聞く・話す力に加えて、書く力が評価に加わったため、15分間の書く活動を取り入れる。子ども達の聞く・話す・読む・書く4技能の力をバランスよく育成していけるよう進めていく。また英検については、3級だと3,000円から4,000円の受験料がかかるが、本市は昨年度までは日本英語検定協会と連携し、モニターとして英検のI B Aを無料で利用し、子ども達の英検の力を図るということを行ってきた。今年度はモニター期間が終了となり、本格的な導入のため、1人当たり約1,000円の負担が発生するが、中学校3年生全員、教育委員会で予算化し、全額補助をするということで進めていく。

(教育長)

この費用は英検のそのもの受験料ではなく、英検I B Mの受験料で、自分の到達レベルの確認のため。それをきっかけにしてもらい、実際に資格取得のためには個人で負担していただくようになる。

(教育指導課)

今年度4月より英語力向上スーパーバイザーということでA L Tのマイケル・デニング先生を教育指導課に配置した。マイケル先生は昨年度、鹿島中学校で書くだけでなく、特に話す、コミュニケーション英語の指導を授業に加え、休業前や放課後に継続して行っていただいたところ、実際に準2級レベルまで到達している生徒が他の学校と比べて多くなった。やはり継続的に取り組んでいくということは、子ども達の力になる。また次のステップである高校に入ってもつながっていくと思うので、教育委員会で各学校を支援していきたいと思う。今年

度はマイケル先生に各学校を訪問してもらいながら全体的なレベルアップにつなげていきたいと考えている。

(委 員) 小学校英語活動意識調査の肯定的回答が85%以上というのは高い数字であるとみるが、対象の学年と現在の数値が分かれば教えていただきたい。

(教育指導課) 対象学年は小学校5・6年生で昨年度は83%が肯定的な回答をした。

・非常勤職員（公民館長・主事）の人事について

(中央公民館) 資料に基づき説明

【主な質疑・意見等】

特になし

5 その他

・鹿嶋市教育委員会関係日程について

6 閉 会

教育長から閉会の宣言がされた。